

飯島勅作

## 「進化論をぶっ飛ばせ」

<前編>

(効果音) (病院の外来風景)

看護婦 次の方、どうぞ。

岡部哲郎 (元氣なく)こんにちは。

看護婦 あら一、哲夫さん。どうしたの、今日は？ 元氣なさそうね。

哲郎 父、おりますか？

看護婦 え～、今日は外来担当よ。今診ている患者さんが終わったら、お話しできるでしょう。(奥に)岡部先生！ 息子さんが来ておりますよ！

哲郎ナレーション 僕の名は、岡部哲郎。勉強よりは、遊ぶことと、趣味でもある科学クラブの活動が好きで、青春高校1年生。ところがこの春になってから、どうも体の具合が思わしくなく、何をやってもすぐに疲れを覚え、そして微熱を出したりしていた。父は、総合病院に勤める内科医だ。僕はこの日、診察を受けるため、学校を休んで、父の勤めている病院を訪ねたのだ。

哲郎 白衣のお父さんって、なかなかかっこいいね。家にいて鼻毛を抜いているお父さんとは、全く別人だよ。それにさ、さっきの看護婦さん、なかなか美人だね。いいなあ、お父さんって。お母さんに言っちゃおうかな。

父 何をくだらんことを言っているんだ。それよりもお前、ひよつとしたら、1学期間ぐらい学校休まなくっちゃならんぞ。あの雨の中をマラソンしたのがいけなかったんだなあ。

哲郎 すみません。

父 検査の結果が出るまで数日かかるが、その間、体育の授業は休んだほうがいいな。必要なら、父さんが学校のほうへ診断書を送るから。

哲郎 やだなあ、体育の授業休むの。第一格好悪いよ。女の子にそっぽ向かれちゃうよなあ。

父 体を壊しちゃ何もならんだらう。そろそろ大学受験を考えるころだし、健康な体は大切なんだ。少しは机に向かって勉強するんだなあ。科学クラブでもいいけど、大学受験には余り役立たんだらう。ところで、大学の進路は少しは考えているのかい？

哲郎 国語、社会、なんて大嫌いだし、通信簿は2と3だらう？まあ、文科系の頭じゃないしね。やはり行くとしたら、好きな分野の理科系かな。工学部もいいなあ。

父 医者になる気はないのか？ うちはお父さんが2代医者が続いたんだがなあ。

哲郎 医者は嫌いじゃないよ。やはりお父さんの子なのかね。人体にはすごく興味があるんだ。人間の体って本当に不思議だと思う。実によくできている。つくづく感

心するんだ。

父 どうだ。一度人体解剖を見に来るかね？

哲郎 そうだなあ。おれ、手先も器用だし、外科医なんてカッコいいね。“白衣のギャノン”ってとこかな。でも、親に似て余り頭もよくないし、かといって金って手もあるけど、お父さんの稼ぎじゃこれも無理だし、まあ、大学は私立の理科系ってとこかなあ。

ナレーション その夜、僕は机に向かっていたが、勉強はなかなか手につかなかった。将来のことや、病院の検査の結果を考えると、不安で胸が締め付けられるようだった。そんな思いを振り払うように、僕は窓を開けて空を見た。

(効果音) (ガラス窓を開く音)

哲郎 あーあ、星空がきれいだなあ。でも、不思議だなあ、この宇宙って。一体あの星空の向こうの 向こうのずうっと向こうは、どうなっているんだろう？ 何があるんだろうか？ 宇宙は膨張しつつあるっていうけど、どういうことなのだろう？ 膨張しているその先はどうなっているのかなあ？ 宇宙に限界はないんだろうか？ 限界がないって、どういうことなんだろう？ 規則正しく運行する天体、太陽系…。それらが膨大な宇宙の中で、一つの点のように浮いているという。不思議だ。一体そのような宇宙の中で生きている人間って、なんなんだろう？ 人間はどうして命を持ち、何のために生きているんだろうか？ 人間が生きるということには、どういう意味があるんだろうか？…

ナレーション 僕の頭の中では、この日も、宇宙の神秘、自然への興味・疑問が止めどもなく広がってゆくのがあった。

哲郎モノローグ こんなに星が出て、晴れていては、明日は天気がいいなあ、きっと。体育の授業は、またグラウンドでマラソンかな。休みたくないなあ。体育休むなんて本当にみっともないよ。おれがいつもグラウンドで走っていると、決まってC組の恵子が、3階の窓からおれのこと見ているんだよなあ。おれに気があるのかもしれないなあ。え〜い！ いっそのこと明日は雨になればいいんだ！ 「雨よ、降れ 降れ」だ。でもこんなに星が出てるんじゃないなあ。あー、そうだ、「天の神様、仏様、それに星の神様、雲の神様、雨の神様、…僕の知らないありとあらゆる神様、明日は雨にしてください。」

ナレーション 僕は小さい時から、神仏に手を合わせることを好み、祖母もそんな僕を見ては喜び、「この子は心の優しい子だよ」と言って、よくお墓参りに連れていったものだった。高校1年になった今の僕の心の中には、自然科学への興味と。そして、それとは全く矛盾するかのような世界、そう、森羅万象の背後にある、眼に見ることのできない何か大きな“力”の存在を信じているような、そんな一面もあったのだ。

次の日――。

(効果音) (雨の音)

哲郎 ウヒョー、雨だよ、雨。さすがだね。昨日の祈りが聞いたんだ。母さん、行ってきます！

ナレーション 午後の体育の授業は、教室で自習となりました。

(効果音) (教室のガヤ)

哲郎 おい、みんな。見ろよ、この掲示板。ここに書いてある、「聖書研究会」ってなんだ？

友人 え〜と、本日午後3時半より、C組の教室にて聖書研究会があります。今日のテーマは、「聖書と自然科学」です。どなたでもおいでください。入場は無料です。」

ナレーション それは、青春高校の中にある同好会の一つ、「聖書研究会」の集会案内だった。

友人 おい、この聖書の「聖」という字よ、書き換えちゃおうぜ。

ナレーション 仲間の一人が、僕の見ている前で、聖書の「聖」の字を塗りつぶし、その横にセックスの「性」の字を書いて、得意がっていた。

哲郎 「性書研究会」か。いいね。まさにエロ本同好会ってとこかな。おれもその会員になりたいもんだ。

ナレーション とその時、先ほどからこの様子を見ていた一人の女性とが、ドアを開けて入ってきた。それは、C組の篠原恵子だった。そういえば彼女は、中3の時に神を信じたというクリスチャンだった。

篠原恵子 よしてよ、そんな下品ないたずら。ちゃんと元の字に書き直してください！

友人 ちえ。おい、みんな、元の字ってどう書くんだったけ？ 聖書の聖の字ってどういう字だったけ？ おれ、忘れちったよ。ねえ君、このままでいいじゃん。セックスの性書だったら、おれ喜んでこの研究会に出席するよ。きっと教室満席になるぜ。なあ、みんな！

男子たち (笑い)(FO)

ナレーション その日の放課後、僕は校門のところで恵子たちが聖書研究会のビラを配っているのに出会った。

恵子 どうぞ3時半からの聖書研究会にいらしてください。どうぞ皆さんおいでくださいーい！

女友達 これ、今日の集会の案内書です。お受け取りください。

ナレーション バツの悪い思いで通り過ぎようとする——。

恵子 あ、岡部君、帰るの？ もしこのあと予定がなかったら、わたしたちの集会に出てください。というより、あなたは出席する義務があるわよ。さっき、あんな失礼ないたずらを見ながら、一緒になって騒いでいたんだから。その償いに出てすべきだわ。それに、今日のテーマは「聖書と自然科学」よ。きっと岡部君にも興

味あると思うの。そろそろ3時半になるわ。岡部君、さあ、わたしと一緒に行きましょ。

哲郎

え、えー?!

ナレーション

さっき、ひそかに好きだった恵子を怒らせてしまった後ろめたさも手伝って、僕は彼女に誘われるまま、聖書研究会の集会に出席した。すでに集会は始まっていた。

司会者

それでは、講師の先生のお話に入る前に、皆さんと一緒に聖書を読みましょう。お配りした聖書の第1ページ、「創世記」というところを開けてください。1章1節から読みます。いいですか。(ゆっくり)「初めに、神が天と地を創造した。地は形がなく、何もなかった。やみが大きいなる…。

哲郎モノローグ

「初めに、神が天と地を創造した。」

ナレーション

僕は、初めて聞くこの聖書の言葉に、ギクツとした。あの夜、空を見ながら止めどもなく考えた宇宙への疑問に対する答えが、この一言の中に込められているような気がしたのだ。僕の目は、その創世記の言葉に吸い寄せられていった。

哲郎モノローグ

「初めに、神が…」この神とはなんだ？ この創造とはなんだ？ こんなこと、今まで聞いたことも習ったこともなかった。聖書の神とはだれなんだ？ その神がこの天地宇宙を創ったというのか？ そんなバカな。そんなの全くのおとぎ話じゃないか。作り話さ。この宇宙は、偶然の重なり合いの中で、創造を絶する長い年月の中で、生じたのさ。そうさ、そのように授業で教えられてきたし、だれもがみんなそう信じている。でもなんだ、今感じているこの驚きは？ 心のうちにわき上がる大きな胸の高鳴りは一体なんなんだ？

ナレーション

(エコー)「初めに、神が天と地を創造した。」知りたい。もっと知りたい。だれか、だれか、答えてくれ～！

<後編>

ナレーション

僕、岡部哲郎は青春高校1年生。幼い時から“自然”に興味を持ち、特に天体とか宇宙の不思議について、その原因を知りたいと願っていた。また僕の乳が医者であることもあって、小さい時から人間の体の神秘を知っては、いつも驚嘆していた。高校に入って、科学クラブに籍を置いていた僕は、一方では、自然現象や森羅万象の背後には、科学では説明のできない、何かの“力”の存在を感じており、その力に向かって祈り心で手を合わせる、そんな一面も持っていた。

ある日のこと、僕は、ひょんなことがきっかけで、ちょっと気のあるC組のクリスチャン女性、篠原恵子に誘われて、彼女が所属している聖書研究会の集会に出席するハメとなった。「聖書と自然科学」がその日のテーマで、旧約聖書の創世記1章からの朗読があった。僕の心は、初めて聞く聖書の言葉の中にぐいぐ

いと引き込まれていき、創世記 1 章 1 節の言葉にクギ付けになった。

聖句

(エコー)「初めに、神が天と地を創造した。」

ナレーション

そんな出来事があった数日後、理科の授業でのことだった。

教師

さて皆さん。今日は 60 ページ、第 4 章の「進化」からでしたね。60 ページを開けてください。そうね、<sup>よしこ</sup>良子さん、最初から読んでくださる？

良子

はい。それじゃ読みます。「大昔の生物は、長い歴史の間に、体の造りや生活の仕方が次第に変化し、いろいろな種類に分かれて、現在見られるような姿に進化してきたと考えられる。地球上に初めて現れた植物は、海水中の藻類であるが、次第に陸上でも生活できるような造りを持つ植物に進化し、今から 3 億年くらい前には、シダ植物が大森林をつくっていた。また海水に生活していた無脊椎動物から、脊椎動物である魚類が現れ、そこから原始的な肺や、足のようなヒレを持つものが現れ、やがて陸上でも生活できるような動物に進化してきた。…」(FO)

哲郎もの

そうなんだ。これが今まで僕が教えられてきたことなんだ。

教師

さて、進化の道筋、つまり生物の系統は、化石の比較や現存する生物の形態、発生の過程など——これらを進化の証拠といいます。それら進化の証拠を長い間研究する中で、明らかにされてきています。

哲郎モノローグ

そうなんだ。進化には、れっきとした数々の証拠があるじゃないか。この証拠を突きつけられれば、だれだって進化を受け入れることができる。この間聖書研究会で聞いた「生物の創造」は、やはり一宗教の作り話なんだ。「あらゆる生物はもともとその生物として創られた」なんてことは、進化の証拠の前に、全く無力でナンセンスなおとぎ話さ。なぜクリスチャンが進化を否定し、「創造」を主張するかと言えば、それは、彼らの信じている神なるものに、絶対的な権威と力を持たせるためなんだ。

教師

さて、進化について、一つの大切な点を忘れないでください。それは、進化には、まだまだ不明な点もたくさんあるということです。68 ページ、69 ページに書いてあるように、これは生物の現象を説明する一つの“説”なのですね。ですから「進化説」と言ったほうがいいでしょう。

哲郎モノローグ

あんなに進化の証拠がありながらも、十分に説明できるものではないのか。「進化説」か…。でも、一般の社会ではすでに決定した「進化論」として受け入れられている。どうしてなのかなあ。

ナレーション

それから数日間というもの、僕は暇さえあれば、この「進化」と「創造」について思い巡らした。そしてある日の放課後、僕はついに決心して、C 組の篠原恵子に会った。

哲郎

あの一、この間はどうも。実は、幾つかクリスチャンの君に聞いてみたいことがあるんだけど。

恵子 いいわよ。これから教会の高校生会に行くんだけど、ちょうど岡部君ちの途中だから、歩きながら話さない？

ナレーション 僕は恵子と一緒に歩くだけで、心臓がドキドキしていた。

恵子 で、聞きたいことって？

哲郎 実は、この間の進化と創造についてなんだけど、どうも考えがまとまらないんだ。もし進化説を受け入れたとしたら、人間は猿から進化してきたということになるよね？そして、そのずーっと先は下等動物だ。なんだか人間としてとっても寂しくなるよな。

恵子 そうよ。人間の先祖が猿なんて。もし人間が猿から進化してきたというなら、人間が存在する目的は、猿の目的となんら変わらないじゃない。そうなら本当に悲しいね。人間は、その存在の最初から、はっきりとした目的を持って人間として創られ、猿は猿として創られたのよ。

哲郎 そう言い切ってしまうのもどうかと思うんだ。

恵子 なぜ？

哲郎 もし人間が最初から人間として創られたとしたら、進化の証拠としての北京原人など、猿と人間の間期的生き物はどう説明するんだい？

恵子 それじゃ逆に聞けど、もし猿が進化して人間になったのなら、今も進化しつつある猿いてもおかしくないじゃない？ 今も北京原人のような、中間的生物がこの地球上に生活していたっていいじゃない。ところが、そんな生き物は全くいないのよ。動物園の猿は、いつまでたっても猿だわ！

哲郎 それも、一理あるなあ。

恵子 わたし、こういう話も聞いたわ。実はね、進化説を唱えたあのダーウィン自身が、その書物の中で、「中間的生物が存在しないのは、不思議だ」と言っているんですって。「生物がある型から次の型へ進化する、その移行型、つまり中間の状態ね、それが今日の世界に見られないのはなぜか」って。ダーウィン自身が進化説に疑問を持っているのよ。

哲郎 へえー。そんなこと、ちっとも知らなかった。なぜ学校では、その辺をちゃんと教えないのかなあ。

恵子 このように、進化という考え方は、十分に証明されていない仮説なのよ。それを全く正しいこととして受け入れるのは間違っているし、そのように教える学校教育も問題だわ。進化説というのは、要するに、“創造主である神などいない、必要ない”という、神を認めない傲慢な人間の罪と無関係じゃないのよ。

哲郎 ふーん。そういう見方もあるのか。よく分かんないけど、なんとなく説得力あるなあ。それと、もう一つ聞きたいんだけどさ、僕、今、体の具合があまりよくないんだよ。この間父の病院で検査してもらったんだけど、どうも胸をやられているみたいなんだ。それでね、聞きたいことというのは、もし神なるものが出て、その神

が人間を創ったというなら、僕のこの体をつくり変える、そう、神は病気をも治すことができるのかなあ。

恵子 ナレーション そうよ、その通りよ。神様は全能なお方だもん。  
確信を持って話す恵子を見ていると、なんだか神の存在が身近に感じられてくるようだった。

いつしか僕たちは教会の前まで来ていた。

恵子 ちょうどいいわ。ちょっと寄ってかない？ 教会の先生だったら、もっといろいろ話してくれるわ。

(効果音) (教会に入る)

恵子 先生いらっしゃいます？

牧師 やあ、恵子さんかね。

恵子 あ、先日お話した岡部哲郎君です。

牧師 岡部君、よく来ましたね。お話はすでに恵子さんから伺っています。まあお掛けなさい。ところでその進化説の件だが、大事な一点をまだ君は聞いていないようだね。

哲郎 どういうことでしょうか？

牧師 それはね、たとえ進化説が生物の変化の途中経過は説明したとしても、宇宙の起源ということと、また、命の発生というか、命の始まりについては、全く回答を持っていないということだよ。進化説は、この宇宙の始まりや、最初の命の発生を、全くの偶然の積み重ねによる、としか説明できないんだ。でも、そんな偶然が成立する確率は、どのくらいだと思うかね？

哲郎 さあ… 全く見当もつきません。

牧師 恵子さん、あなたは どう思う？

恵子 確率ですか？ そこまではちょっと…。

牧師 それはね、時計の部品をバラバラにして箱の中に入れ、それをガラガラと振っているうちに、いつしか完全な時計が出来上がってしまう、その確率よりもはるかに はるかに小さいんだ。ということは、全くのゼロに等しく、事実上、進化説の偶然は起きることがないんだよ。

恵子・哲郎 (異口同音に) そうなんですか？…

牧師 時計は、知恵のある人間が一つ一つの部品を丹念に組み合わせて、初めて時計になるよね。それと同じように、人間も、はるかに知恵のある、あるお方によって創り上げられたのだよ。それも、時計は、“時を計る”という目的のために作られる。ならば人間も、目的なしに創られることはないよね？ どんな目的のために、人間は創られたと思うかね？ 岡部君、どうかね？

哲郎 はあ…。分かりません。

牧師 人間はね、創り主なる神様と、愛のコミュニケーションを持つために、創られた

のだよ。

哲郎 愛の、コミュニケーション？

牧師 岡部君。君は何かに向かって祈ったり、手を合わせたりすることはないかい？

哲郎 えー、あります。

牧師 あって当然のことなんだ。だれでも人間なら、皆、そのような気持ちを持っている。それはね、人間が、自分を創った創り主なる神様とのコミュニケーションを求めている証拠なのだよ。なぜなら人間はそのように創られたのだからね。しかし、多くの人々は、まことの創り主なる神様を認めたがらず、必要としないため、その心を星や太陽や、そしてまた人の手をつくったいろいろな偶像の神々に向けて、拜んでしまうのだよ。

哲郎 そうか。そうだったのか…。

牧師 わたしたちが手を合わせ、心からの祈りをささげてコミュニケーションを持つのは、わたしたちをお創りになった生ける唯一の神、聖書の神様なのだ。さあ、岡部君、一緒にその神様に祈ってみよう。

ナレーション 僕は、自分でも驚いたことに、自然に頭を下げていた。何か目に見えない大きな存在に圧倒されて、そうせずにはいられなかったのだ。僕の中で、進化論が急に冷たい、色あせたものに思われていくのを感じながら、僕は心の中で、そとつぶやいていた。「初めに、神が天と地を創造した。」

<完>